

ねじりはちまき

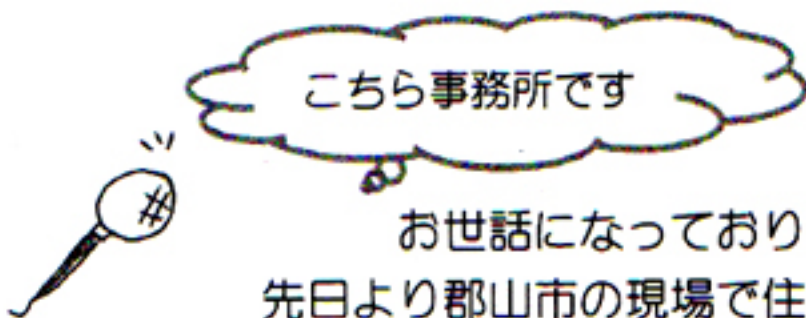
3月 弥生 啓蟄 春分の月になりました。
3日、3月の節句ひな祭りです。6日啓蟄です。21日春分の日、彼岸の中日
でお墓参りです。

今年は、125代も続く皇室の歴史が、また1ページ積み重なる貴重な年を
迎えます。今年は、昭和が終わり平成になって31年、そしてその平成は今年
で終わり、今度は何という時代が来るのか楽しみですね。

平成の始め頃の福島県の人口は210万人を超えていましたが、今は186
万人位になっているそうですね。
東日本大震災と東京電力福島第一原発の事故により、減少に拍車が掛ったと思
われます。しかし、時間が経てば回復するでしょう。
また、近々オリンピックもあります。お楽しみです。

少しは暖かくなりましたが、まだ寒い日もあります。
そして悪い風邪がおさまっていません。お気を付け下さい。

幸田 常一



こちら事務所です

お世話になっております。
先日より郡山市の現場で住宅新築工事を開始させていただきました。
また、これから工事をさせていただく現場の打合せや、
図面の作成などしております。

魚編の漢字の話

魚編の漢字は700以上あるという。小生は確かめていないが、それだけ魚の種類が多いということだろう。皆さんはどれだけ魚の種類を知っておられるか、小生は知っている方とはいえない。まして漢字で書ける魚はどれだけあるかとなると自信がない。でも食卓にのぼる魚は好んで食べる方だ。日本は世界屈指の漁業国であり、世界一の魚食民族であるという。魚はそれだけ身近な存在である。今回は魚を巡る漢字の歴史をいくつかたどってみたい。また、魚編のつくりの部分はどのようにしてそうなったかの由来も出来る限り紹介したい。どんな話になるのだろうか。(この話はNHKのテレビ番組「日本人のなまえ」と江戸屋魚八著「魚へん漢字講座」を参考にしている)

漢字の記録で遺っている最古のものは、木片に墨で記された木簡である。その木簡に登場する魚の漢字が鮭(さけ)である。飛鳥時代のことである。今の鳥取県から時の朝廷(天皇)に税として献上されたものである。鮭は身が赤味で卵も赤く、その当時赤は大極殿などの塗にも用いられ、靈力をもつ色として重宝されていたので、最高の納税品であったという。ところが鮭を税として献上させようと各地に周知させるにしても、地域によって名が異なり、統一呼称を考案する必要に迫られた(推測)。そこで魚偏の漢字を考案しようということになった。そこで考案されたのが鮭という漢字である。では魚偏のつくりはなぜ「圭」になったのか。サケの特徴(形状)をみると、古代中国で祭祀に用いられた宝石(圭)に似ていたところから「鮭」にしようとなっただけらしい。これが魚の特徴から魚偏のつくりを考案する起源になったというのだ。同時代の木簡には、税として献上された魚として、鰻(あわび)や鮎(あゆ)の漢字もある。鰻は腹のようにふくらしているから、鮎は戦の占いに用いられたという伝説からそれぞれのつくりになったとされている。いわれてみればもっともらしく聞こえ、頷ける。このようにして魚への共通認識が広がった。

次に奈良時代に入るとどうなるか。税を集めやすくするために種類が徐々に増え、鱒(いわし)、鯖(さば)、鯛(たい)などの魚偏漢字が登場する。鱒は水から上がるとすぐ死ぬというので、弱のつくりが充てられた。鯖はご承知の通り色が青いので旧漢字の青が充てられた。では鯛はどのようなのだろうか。つくりは赤でなく、周である。鯛はめでたい時にいただく魚、そのめでたさ(幸)が広がるようにとの意から周(周知の周)が用いられたとのこと。その外この時代に鮒(ふな)、鯉(こい)も登場したようだが、つくりの部分がなぜそうなったか皆さんはどう想像されるでしょうか。鮒の付は小さいという意味があるとのこと、鯉の里にはウロコや筋の意味があり、鯉にはウロコが発達して筋目がはっきり見える魚なので里のつくりとなったとのこと解説がある。

次に平安時代になると、さらに税の対象となる魚の種類が増え、それに伴って魚偏漢字が増えていったという。それだけ税収を必要とするというのは、貴族階級の層が厚くなっていったということの意味なのか。何と魚偏の漢字が291にもなったのだ。その中で紹介したいのは、蒲鉾(かまぼこ)のことである。今の蒲鉾とは大分様子が違うのだが、当時としては上流階級の超ご馳走であったらしい。その蒲鉾に使われたのが淡水魚の鯰(なまず)だったのだ。鯰のつくりの念には、ねばるという意味があるとのこと。ご承知のとおり鯰は体がぬるぬるとねばる魚であることから念の字が充てられたというのである。この外鰹(かつお)、鰯(あじ)、鱒(ます)などがある。鰹は堅魚(かたうお)が変化したもので、鰹節が堅いことからカツオになったと言われる。鰯はつくりが本当はなまぐさいという字を充てていたらしいが、一番おいしい季節が旧暦3月なので数字の参が使われたとの説がある。鱒のつくりは「赤い」という意味があり、鱒は赤い目の魚を表わしている。

次に室町時代に移る。この時代さらに魚偏の漢字が増えるが、包丁革命のことに触れておきたい。包丁が刀剣のような形状から今の包丁のように顎(あご)付きの形状になり、魚の骨(小骨)まで切れるようになったのである。つまりこの魚調理法が普及する中で魚

偏の漢字が一層身近なものになっていく。その代表例が鱧（はも）である。ところで鱧のつくりの豊は何を表わすか。豊は「まがりくねる」という意味と「黒い」という意味がある。くねくねと曲がりくねった黒い色の魚が鱧というわけである。

次は江戸時代の話である。この時代になると魚偏漢字は577字に増える。これはかつての海賊が本気になって漁業に精を出すようになったからだという。話は豊臣秀吉の時代に遡るが、秀吉は停止令を出し、海賊から武器を取り上げたのである。そこで海賊は海で生き延びるために、漁業に着手する。そこで、海賊はそれまで培ってきた海への知識を漁の技術に生かしていく。例えば、漁船については、船首をV字型にし、荒海を乗り越えて外洋にまで出られるようにした。そうするとそれまで知られていなかった魚が獲れるようになり、量的にも大量に採れ、江戸庶民の台所に乗るようになる。それに従って魚の名、魚偏の漢字が増え、普及する。もちろんこれらは当時の寺子屋の教科書にも登場していた。もうひとつ海賊の漁の話。海賊は海の状態も熟知していた。そこで海底の状態に応じた漁法として底はえ縄を開発したのだ。それは鱒（たら）を狙ったものだ。鱒のつくりは雪だが、雪のように白い肉の魚ということでそうなったのと、雪の舞う冬の季節に大量に獲れることから「雪の魚」となったとのことである。余談だが、「たらふく食う」は鱒腹食う、「やたら食う」は矢鱒食う、食欲で何でも食べる大食漢の鱒の特性からできた言葉だという。こういうことを聞くと、言葉の起源はとても面白いものだとつくづく思う。それともう一つ、海賊の漁だが、海賊は鯨（くじら）、捕鯨もしたというのだ。鯨肉は江戸でとても人気があったという。鯨のつくりは数字の桁の「京（けい）」で、桁違いに大きいのでそれを充てた。もう一つ面白い話。江戸期の武士の釣りの話だが、当時趣味の釣りは殺生（仏教）として禁じられていた。でも江戸詰め各藩の武士は世の平安の中で暇を持て余していた。そこで武士たちは鱒（きす）に照準をあて、殺生ではないとの論理（美学と武士道）を組み立て、とうとう鱒釣りを堂々やれるようにしたとのこと。鱒は先ずキスという名があり、キは接頭語のキを表わす喜を充て、スは飾り気がなく清楚なこと表しているという。

以上は魚偏の漢字にまつわる歴史的な話とその漢字の由来を述べてきたが、これからはそれ以外のもので、親しみのある寿司ネタや刺身の類を見てみよう。寿司は当て字で、鮓が正しい。鮓のつくりは「魚でつくった旨（うま）いもの」の意である。先ずは鮓（まぐろ）である。マグロという名は、常温で時間がたつと真っ黒になることから「まっくろ」→「まぐろ」になったといわれる。つくりになぜ「有」の字が充てられたかは定かではない。次は鱈（すずき）だが、つくりは盧（ろ）で、えらの並び方に特徴がある魚という意である。また「スズキ」という名の由来は、刺身にした時の身の美しさからきているとのこと。鱒（ひらめ）だが、そのつくりはだ円形で極端に平たいその体の特徴そのまま「平べったい魚」を表わしている。鱒（ぶり）はそのつくりの師が年寄りを表わし、魚類中の先輩格で、冬は特においしいので「師走の魚」ということも表している。エビ（海老は当て字）、イカ、タコについては小生のパソコンでは魚偏の漢字が出てこないのを勘弁していただきたい。最後に鰻（うなぎ）について。つくりの字は「ほそ長い」「長く伸びる」という意味であり、ウナギは胸の部分が黄色いことから「胸黄（むなぎ）」と呼ばれ、それがウナギとなったと言われる。今回は以上で終わりとしたい。

会津磐梯山・・・裏磐梯からのアイゼン歩行

♪イヤー 会津磐梯山は～宝の山よー♪ (ハーヨイショヨイショ) 笹に黄金が
エーマタ～なり下がるー♪ (チョイサーチョイサ) ♪イヤー ～

磐梯山(標高1816m、以下カッコ内は標高の文字を省略する。)は福島県が全国に誇る日本百名山。夏場は全国からの老若男女や林間学校のイベントとして児童生徒に登られている山だ。

冬場は登る人が極端に少ない。自分も表磐梯の猪苗代登山口から何度も挑戦したが、「沼の平」まで行くのに時間がかかってしまい、時間切れで引き返し、冬の山頂には立ったことがなかった。

2月27日(水)、今回は裏磐梯スキー場(北塩原村)から登りイエローフォール(*)を眺めてこようと思ひ妻を誘った。

(*)10年前の平成21年2月21日に友人と行ったことがある(ねじりはちまき125号)。磐梯山北側の爆裂火口壁にできる、凍りついた黄色い巨大氷瀑。冬にしか見られない。

前夜飲み会だったので、安全策をとり、妻の運転で自宅を8時前に出る。猪苗代ICを降りても雪が少なく、田んぼも黒々としているところが多かった。道路も乾燥していて、五色沼辺りからようやく数センチの圧雪になってきた。裏磐梯高原ホテルの先を標識に従いスキー場方面に左折し、2kmほど未舗装のどろんこ道を4W車専用駐車場(900m位)まで登る。下の駐車場には3台の車が駐まっていた。準備をしているとゲレンデを単独者と二人組と三人組のグループが登って行った。遠目には男女の別は分からない。

ストックを忘れてきたことに気がついたがなんとかなるだろうと思い、9:10アイゼンを装着して出発。妻は震災以降アイゼンを使うのは初めてではないか。スキー場はリフトが動いていない。小屋の表示は「運行時間9:00～15:30」となっているが、係の人の気配もない。(*)

(*)後で調べたら、営業は火・水・木は団体予約のみとなっていた。

雲は高く風はない。先行する二人組は登山靴のまま歩いている。自分たちはスキー場の整備された雪面にアイゼンが効いて歩き安い。トレース(踏み跡)と10年前の記憶をたどりメインのコースを横切り二股になっているところを左側のコースに歩を進める。傾斜はそんなにきつくはない。右カーブのところコースを外れ左側の樹林帯に入っていく。雪は締まっていて沈まない。緩やかな起伏のある所を木々の間を縫って登って行く。平原状の樹木のないところに出ると、そこは銅沼(あかぬま)の上でかつての磐梯山噴火口の一つ、冬場は凍った水面に雪が積もり歩けるようになっている。(*)

(*) 1888年(明治21年)の磐梯山の噴火でできた標高1120mの火口湖。2016年7月にNHK「プラタモリ、会津磐梯山」で放映されたとのこと。

櫛ヶ峰と磐梯山北側の山体崩壊の跡が曇り空の下に横たわっている。山頂はまだ見えず、爆裂の激しさを表したような天狗岩が天をつくように空に飛び出している。表磐梯から見た優美な表情とは全く異なっている。

対岸(東側)に噴煙(蒸気)が数カ所上がっていて、その下が傾斜の急な岩壁になっているところがあり、雪の少ない時のイエローフォールはこんなものかと思い休憩する、9:55。単独行の若者が下ってきた。山頂には行かないで引き返してきたと言う。イエローフォールまではスキー場からもう少し時間がかかった気もするが、10年前の記憶は曖昧だ。

妻はここで引き返すと言い、おにぎり4個のうち1個を持って下山する。ストックを妻から借りる。

ここから引き返したら運動量が足りないので、少なくとも山頂への登り口を確認したいと思い、緩やかな平原状の所をススキや低木の枝をくぐって歩いて行くと突き当たり(火口壁)のところにスノーシューの若い二人の女性がいた、10:20。

ここがイエローフォールと指し示してくれた。過去にその景色を見ていた者からすれば信じがたい光景だった。フォール(氷瀑)は少しだけで茶褐色のウォール(壁)があるだけだった。降雪の少ないせいだろう。早い時期に来れば違った光景だったのかも知れない。

拍子抜けして、さてこの後どうしようかと考えながら休憩した。二人の若い女性は山頂にはいかないという。雪原でキャッキョウ言いながらスノーシューで遊んでいる。・・・うらやましい。

イエローフォールを後にし、山頂に向う人が行った方向の踏み跡をたどって北側に進んでいくと樹林の中に入ったところに、雪の上に顔を出していた標識があった。【←川上登山口 磐梯山頂→】

川上登山口からは夏場に何度か登ったことがある。

右側に向うと急登の尾根になる。この尾根は噴火口の火口壁で無雪期のルートに沿っているのだろう。もう少し登ったら引き返そうと思いながら進んで行くと、幅1.5m位を挟んで両側に逆U字の鉄製の柵が現れてきた。転落防止の柵で見覚えがあり、20cm位頭を出していた。雪の下は階段状になっているところで、腰くらいの高さのはずなので、この辺の積雪はせいぜい60cmか70cm位しかないことになる。ここまで来れば引き返すのがもったいないと思った。

早く妻に連絡しないといけないと思いながら、樹林の中の急登を登って行く。右手側に荒々しく天をつく天狗岩や左手側の櫛ヶ峰から延びる稜線が見えてく

る。振り返ると遠くにグランデコススキー場のある西大巔（にしだいてん）、西吾妻山（2028m、日本百名山）、手前に桧原湖、眼下に銅沼。

歩いてきたルートはイエローフォール（火口壁）の真上だったのだと実感する。

樹林帯を抜けると櫛ヶ峰と剣ヶ峰本峰を結ぶ稜線に出た。雪が少なくところどころ茶褐色の地肌がむき出しになっている。感覚的には5月半ばの山開き頃の景色だ。標識【←川上登山口 4.5km、山頂 1.3km→】のところで小休止、11:20。ここまで来れば引き返したくない思いが強くなった。アンテナが立ったので妻にメールする。「山頂を目指したい、山頂まで1.3kmの標識のところから」とメール。「気をつけて」との返信。結果的に長い時間待たせることになるので妻に悪いと思ったが、毛布と湯たんぽと小説を用意していたことが分かっているので、ここはわがままを許して貰うことにした。ようやく気兼ねなく山頂を目指すことができる。

右側が切れ落ちている火口壁の縁を歩く。左側（南側）の赤埴山（あかはにやま 1430m）手前に黒いところが多い「沼の平」の窪地が見える。正面左奥に磐梯山最高峰の白銀の本峰・剣ヶ峰（1816m）。後方には黒い茶褐色の櫛ヶ峰（1636m）。右手下には先程歩いた樹木のない火口原が見える。雪のある所を選んで進む。

黄金清水（こがねしみず）のある緩やかな原（はら）状のところ（無雪期はお花畑）は清水から流れ出る水が凍っていて、パリッパリッと音を立てながら進む。少し急な斜面を登るとようやく雪だけの世界になってきた。

11:58、剣ヶ峰の麓、標高1600m 弘法清水着。無雪期は賑わうところだ。弘法清水小屋は半分雪に埋もれ、岡部小屋はほぼ埋まっている。清水も雪の中だ。

ほとんど休まずに来たので休憩し、エンジンとゴボウの炊き込みご飯のおにぎり1個とお菓子でエネルギーを補給する。ここまで息切れもせずに来られたのはスポーツジムでの筋トレと有酸素運動の成果かなと思った。

手袋を防寒用のものに替えインナーを含め3枚を着け、標高差200mの山頂を目指す準備を整える。先行の3人が山頂直下を歩いているのが黒く見える。剣ヶ峰左側（東側）の断崖には近づかないように少し窪んだ無雪期の登山路と思われるところのトレースをたどる。背丈ほどの木々は樹氷になっていてきれい。風がないのが何よりだ。

12:40 山頂着。スキー場から3時間30分、無雪期より少しだけ余計にかかったぐらいか。

先行の3人組が迎えてくれた。2人は60代後半の熟年男女で、壮年の真っ黒に日焼けした男の人がリーダーらしい。リーダーが、「少し前、飯豊連峰にかかっていた雲が流れて360度全部が見えるようになったところ。運がいいですね」と言ってくれた。

全体的には高曇りであるが西の飯豊山の辺りは青空もある。飯豊連峰は黒く霞む雲海（低山の連なり）の上に浮かぶように白く横たわっている。「気高さ」を感じる。

西側手前には猫魔スキー場、右手には西大巖・西吾妻山の斜面にアルファベットの文字を組み合わせたようなグランデコススキー場のゲレンデと吾妻連峰、その手前の桧原湖（822m）・小野川湖（797m）・秋元湖（736m）は樹林にかこまれて白く浮き上がっている。右手奥には安達太良連峰が見え、左側の優美な白い姿は箕輪山（みのわさん 1728m・・・安達太良連峰最高峰）だ。乳首山（ちちくびやま）とも言われる安達太良山頂（1700m）を挟んで右側にはボリュームのある和尚山（おしょうざん 1640m）が黒っぽく見える。中通りに近いせいか雪が少ない。手前には猪苗代町の田んぼと集落。その右に雪のない黒い大きな沼・・・猪苗代湖（514m）が横たわっている。猪苗代湖の右手には会津若松方面が霞んでいる。

3人組が下山していく。

携帯で撮影しながら山頂からの景観を楽しんでいると電話が鳴った。山頂は通信可能だ。話しているうちに右手がかじかんで来たので断って通話をやめる。下界の話を山頂で聞くと違和感がある。10分も素手でいただろうか。

360度の展望を独り占めで堪能していたら、妻からメールが入り、夜の行事の関係で15時までには下山して欲しいとのこと。一挙に世俗の世界に引き戻される。

13:10 下山開始。黄金清水のところで3人組を追い越し、櫛ヶ峰からの稜線を離れ、火口壁の稜線を下る途中でおにぎりを食べていると、3人組が追いつき話をする。年季の入ったワカンジキも背負った熟年の男女は横浜の人で、「冬の磐梯山は案内標識もほとんどないので、万が一吹雪かかれたらガイドがいないと危ない」と話していた。案内人は宿泊したペンションのオーナーということ。

往路を戻る途中銅沼のところから振り返ると、天候が良くなって明るくなっていた。櫛ヶ峰、磐梯山北側の火口壁、天狗岩などの山体崩壊跡を見納めてスキー場のコースを下る。

14:55 駐車場着。約6時間のアイゼンによる磐梯山山行を無事終える。

妻は車のエンジンをかけないで、湯たんぽと毛布では結構寒かったとの感想だった。

自分は冬の磐梯山を満喫し楽しかったが、そんなに怒られずに済んだことが一番良かった。

平成31年3月 NO77 アンチ・エイジング 山旅遊人

<会社近況>

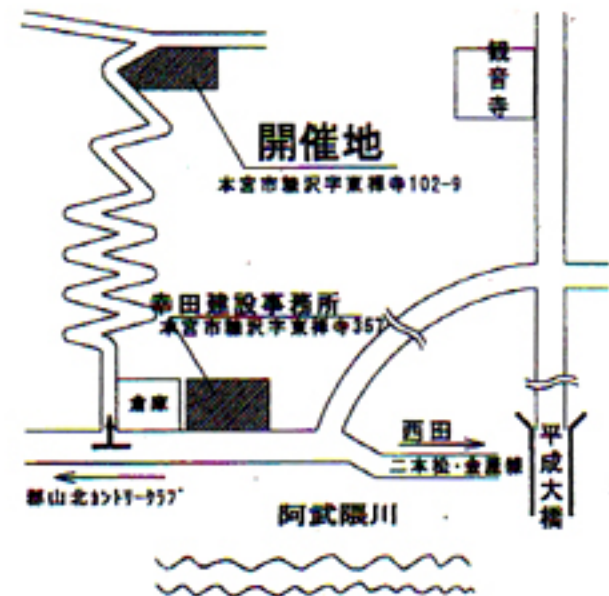
春到来を思わせるような暖かい日が、続いています。
雪や強風などで、冬季に傷んだ個所の点検を行ってみてはいかがでしょうか。
補修が必要ならひどくならないうちに補修工事など行っておくと、住まいを快適に保てるかと思います。

☆お知らせ☆

3月16日(土)・17日(日)の2日間、施主様のご厚意により住宅内覧会を開催させていただくことになりました。
前回は開催させていただきました、山の上の小さな家です。
床暖房で家の中は全室ぽかぽか暖かいですよ。
暖かさを体感しにぜひいらして下さい。

- * 時間 午前9時～午後16時
- * 場所 本宮市糠沢字東禅寺 102—9

※簡単な地図でわかりずらいかも知れませんが、
ぐにゃぐにゃした山道をどこまでも登って来て下さい。山道ですので対向車輛には十分にお気を付け下さい。



おいしい♥3月
「セリ」

セリにはビタミンCやミネラル、鉄分も豊富に含まれています。
鍋料理に使う他、茹でてゴマあえやからしあえ、ピーナッツあえにもいいですよ。セリはアクが強いので下茹でて水によくさらしてから使います。

.....

平成31年3月5日発行
有限会社 幸田建設
<発行責任者>幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
電話 0243-44-3816

<後記>

暖かい日が続いたせいでしょうか、
梅の花が開花しましたね。花そのものは
小さくてかわいらしいので、見ていると
ほっこりしてきます。皆さーん、春ですよ~!
と知らせてくれているようです。
(事務員ト)